



2022年7月29日

各位

会社名 株式会社トライアイズ
代表者 代表取締役社長 池田 有希子
(コード4840 東証グロース)
問合せ先 取締役経理部長 上嶋 悦男
電 話 03(3221)0211

2022年12月期第2四半期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2022年2月14日に公表いたしました2022年12月期第2四半期累計期間(2022年1月1日~2022年6月30日)の連結業績予想と実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想との差異

2022年12月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異 (2022年1月1日~平成2022年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	527	31	△1	105	13円60銭
実績(B)	404	△32	△73	△117	△15円13銭
増減額(B-A)	△122	△64	△72	△224	—
増減率(%)	△23.2	—	—	—	—
(参考) 前第2四半期実績 (2021年12月期第2四半期)	716	△0	△48	△76	△10円32銭

2. 差異の理由

差異が生じた主な理由は以下のとおりであります。

①売上高から営業利益までについて

建設コンサルタント事業の売上高は228百万円(前年同期比52.7%減)と当初の計画値245百万円を若干下回る結果となりましたが、収益性が低い長期大型案件が未発生であったことにより原価率は51.1%と計画値66.1%を下回る結果となりました。また、固定費削減活動により、販売費及び一般管理費は52百万円と計画値61百万円を下回る結果となりました。原価率の改善と固定費の削減により、当第2四半期連結累計期間は58百万円の営業利益と計画値22百万円を大幅に上回る結果となりました。

ファッションブランド事業においては、年初からのまん延防止等重点措置発令による外出自粛及びセレモニーの中止の影響により主力製品の需要が減少した影響を受け、売上高は120百万円と計画値244百万円を大幅に下回る結果となりました。販売費及び一般管理費については固定費の削減に努め、75百万円と計画値120百万円を下回る結果となりましたが、売上高の減少を賄うには至らず、営業利益は0百万円と

収支がほぼ均衡し、計画値 42 百万円を下回る結果となりました。投資事業の売上高は 55 百万円（計画比 148.8%）と計画値を上回ったものの、未稼働物件の固定費の負担が当初の予測を上回り、売上原価及び販売費及び一般管理費については、計画値を大幅に上回る結果となりました（合計で計画比 208.1%）。そのため、前年同期と異なり 44 百万円の営業損失（前年同期は 47 百万円の営業利益）と損失に転じました。

以上、ファッションブランド事業の売上高の計画未達及び投資事業における計画を超える費用の発生により、32 百万円の営業損失と計画値 31 百万円を下回り損失に転じました。

②経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益について

営業外収益については、補助金の受取や保険解約返戻金等の発生もあり、15 百万円（計画比 176.6%）と計画を上回る結果となりました。営業外費用について、借入金に係る支払利息は 50 百万円（対計画比 109.%）概ね計画通りの金額となり、営業外費用合計額は 56 百万円と、計画値 42 百万円を上回る結果となりました。この結果、経常損益は 73 百万円の経常損失となりました。

また、第 2 四半期において投資事業における物件の入替を予定しており、入替に伴う物件の売却益を特別利益として見込んでいましたが、物件の入替が予定より遅れたことにより、固定資産売却益は未発生となりました。また、拠点の集約を行い集約に伴う固定資産の除却損を計上しました。固定資産売却益を見込んで税金等調整前四半期純損益は 161 百万円の利益を見込んでおりましたが、上記の要因により 93 百万円の税金等調整前四半期純損失となり、法人税等を計上した結果、最終的には 117 百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失と、純損失に転じました。

3. 通期業績予想について

前述のとおり、建設コンサルタント事業売上高は当初の予測どおりに推移しているほか、現状完成時期が先送りとなった案件及び完成までに長期を要する長期案件は発生していないため、採算性は改善の傾向にあります。そのため、当初の予測通りの売上及び収益の計上が可能と見込んでおります。

ファッションブランド事業においても需要及び生産高も回復基調にあり、下期の生産拡大と売り上げ増加により、原価率が改善し、採算性が向上すると予測しています。また、投資事業の収益物件は堅調に稼働しているほか、物件の入替も予定より遅れているものの、固定資産の売却については当期のうちに完了させる予定でおります。

そのため、当第 2 四半期では計画値と実績に差異が発生したものの、下期における収益性の回復を見込んでいるため、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、当初の予測通りであると判断しております。

2022 年 2 月 14 日に公表いたしました連結業績予想では、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は当期上期まで継続し、下期より回復基調に転じると判断しております。現状からはこの予測に変更はありません。そのため、現時点におきまして連結業績予想に変更はありません。なお、業績予想へ影響を与える状況・事象が発生し、これにより通期業績予想を修正する場合には速やかにお知らせいたします。

以上

（ご参考）2022 年 12 月期連結業績予想（2022 年 2 月 14 日公表）

（単位：百万円）

	連結売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
2022 年 12 月期連結業績予想	997	106	34	125	16 円 14 銭